

特集

同志社 創立135周年記念行事



学校法人同志社は2010年11月29日に創立135周年を迎えるにあたり、多岐にわたる記念事業・行事を実施してまいりました。同志社は本事業を通じて、建学の精神であるキリスト教主義、自由主義、国際主義に基づく良心教育の意義を改めて確認し、今後もこの精神を継承、発展させてまいります。

講演

同志社の良心教育
同志社の教学理念
新島襄の人と思想
新島襄の志
同志社大学の改革—2013年に向けて
講話「庭上梅」について

同志社総長 大谷 實
同志社総長 大谷 實
同志社理事長 野本 真也
同志社理事長 野本 真也
大学長 八田 英二
大学神学部教授 本井 康博

記念事業報告

学校法人 同志社
同志社創立135周年記念事業委員会



同志社創立135周年記念●「函館新島講座」―脱国の地において―

6月14日は146年前に新島襄が函館（当時は「箱館」）から脱出した記念すべき日です。本年は6月13日に創立135周年記念行事として、函館市・函館国際ホテルにおいて「函館新島講座」が開催され、約220人が参加しました。当日は講演のほか、新島が江戸から函館へ渡った際に乗船した洋式帆船「快風丸」の復元模型が学校法人同志社から函館市に贈呈され、北海道函館水産高校の生徒たちによる寸劇「新島襄と仲間たち」も上演されるなど、新島の大志を継承する決意を新たにす機会となりました。翌14日は11時から、函館市大町にある「新島襄海外渡航の地碑」において碑前祭を執り行い、60人を超える参加者が与えられました。

講演

同志社の良心教育



大谷

同志社総長 實

同志社の一貫教育の本質

最近はこの大学でも、建学の精神あるいは教学の理念、教育研究の理念ということを盛んに言うようになりました。ひと昔前までは、あまりそのようなことは言わなかったですね。大学の受験競争

の激しい時代はそういうことを言わなくても、受験生を確保できたからです。ところが現代は少子化の傾向が極めて顕著でございまして、十数年前ですと18歳人口は200万余りでしたが、現在は120万余り。いっぽう大学の数は一向に減らないわけですから、当然大学は受験生

を奪い合わなければならない。その一つの目玉として教学の精神、理念が叫ばれるようになったわけです。

同志社はずっと苦しい時代がありまして、戦前から、同志社の教学理念は良心教育であると言ってまいりました。ご参考までに、最近の大手の大学の教学

の理念をご紹介いたしましょう。たとえば立命館大学は「自由と清新、平和と民主主義」、関西大学は「正義を権力から護れ、学理と実際の調和」、関西学院は「世界市民たれ、学びと探究の共同体」、早稲田大学は「学問の独立、学問の活用」などと謳っております。同志社は良心教育、それもキリスト教主義と自由主義、国際主義に基づいた良心教育です。

良心教育と、キリスト教主義、自由主義、国際主義という三つのプリンシプルはどういう関係にあるのでしょうか。よく卒業生に言われますが、良心教育というところはいいのだが、もうひとつ中身が分からない。そもそも良心という言葉自体が難しい。しかし、校祖新島襄は「一国の良心たれ」、あるいは「良心を手腕に運用する人物たれ」、さらには「良心の全身に充満したる丈夫の起り来らん事を」と言いました。これはまさに同志社の原点であろうと思います。私も総長になりまして10年が経ちます。そこで、現時点で私が考えております良心教育の中身、三つのプリンシプルと良心教育

育との関係について、ご参考に供したいというのが本日の講演の主旨でございます。

さて、ただ今同志社には12の学校がございます。あわせてほぼ4万1000人が学んでおります。大学には現在12学部があり、学生数は約2万7600人です。来年は13学部に増えます。女子大学には薬学部もできまして、ただ今5学部、6300人。女子大としては最も大手の大学になってまいりました。同志社中学校と同志社高等学校は今まで分かれておりましたが、中学校を移転統合して、今年これらが一つになりました。現在、岩倉校地に2010人の生徒がおります。大阪に同志社香里中学校・高等学校があり、1700人弱の生徒がおります。同志社女子中学校・高等学校に1500人、京田辺市にある同志社国際中学校・高等学校に1100人。そして4年前にできた同志社小学校に540人、さらに同志社幼稚園に90人。あわせると、約4万1000人です。このような体制により、同志社ではいわゆる一貫教育を行っております。

最近中学校と高校が分かれていたものを統合して、中高一貫教育を行う学校が増えてきました。一般に行なわれています中学校と高校の一貫教育の場合は、おそらく学力の向上を目的とする学校が多いと思います。同志社では二つの意味で一貫教育を実施しております。一つは幼稚園から小学校、中学校、高校、大学と、推薦入学を認めていること。もう一つは、同志社の教育理念、教学の理念を幼稚園から大学院まで、それぞれの発達段階に応じて実施していく点に特徴があると思っております。

「良心」はどこから生じるのか

そうしますと、問題になってくるのは一貫教育の中身です。まず、良心教育とは何かということが一番大きな課題になるでしょう。それとキリスト教主義、国際主義、自由主義がどのように結び付くのか。新島襄の言う良心はどのようなものであるのか。「良心」といえば、誰が考えても同じものではないのかという異論があろうかと思えます。そこでやはり、この「良心」について考えていく必要が



あるものと思います。まず「孟母三遷」で知られる孟子が「良心」という言葉を使っており、これが日本に運ってきたと、どの辞書にも書かれております。良い心、それが良心であると。

しかし、良い心は誰にもあるでしょう。そこで『広辞苑』を引きますと、「良心」とは「何が善であり悪であるかを知らせ、善を命じ悪をしりぞける個人の道徳意識」とあります。それに対して『辞林』では「生まれながらに持っている汚れない心」とあります。別の辞書を見ますと、そもそも「良心」とは漠然としたものであって、定義つけられるものではない、という説明もございます。すると、そういう漠然とした言葉で同志社の建学の精神を語ることは不十分です。もう少し整理して、新島の志はどこにあったのかを踏まえながら「良心」という言葉を考えていく必要があるでしょう。

私は、「良心」という言葉を理解する出発点は、「良心の呵責」という言葉にあると思います。呵責、悔いること。どうして呵責は生じるのか。たとえば窃盗をする、人を殺すといった罪を犯すと、普通の人は後悔する。犯罪を自らの意思でやっておきながら、なぜ後悔するのでしょうか。

その後悔の念も自分自身から出てくるものです。それは、自分の持っている別

の人格や心がそうさせるのではなく、人によつてはこれを「聖なるもの」と呼びます。人間を超えた、超自然的なものが良心の呵責を生み出させるのではないだろうか、後悔や反省はそこに生まれるのではないだろうか、私はずっと考えておりました。

神との対話から生まれる「良心」

最近、それをさらに整理してみました。英語で良心はconscienceと言います。conは「一緒に」、scienceは「科学」です。科学の出発点は「知る」ことです。つまりconscienceは「共に知ること」が本来の意味であり、そこには善いか悪いかという意味は、本来の性質としては備わっていないのです。では、誰と共に知るか。そこで先ほどの「聖なるもの」が出てきます。この世のものを超えているものと自分とが知り合うこと、それが良心の原点でなければならぬのではないか。これをキリスト教で言えば、聖なるものはキリスト、あるいは神様です。神と共に知るのが良心です。そして共に知るためには、そこに双方の意思の連絡、

対話が必要です。いま世界各地で対話が必要だと言われているわけですが、良心とは、神と自分との対話を通じて物事を決めることなのです。キリスト教的に言えば、祈りを通じてキリスト教の神と対話をする。そこから導かれた判断をし、その判断に基づいた行動をする。これが良心の基本でなければならぬのではないのでしょうか。

カントが「道徳的世界秩序」という言葉を用いました。人間の内なる世界には理性的な道徳的世界秩序があり、それに則して行動していけば喜びがある、そこから罪の意識も出てくるという考え方です。しかし、そこで秩序に従ったから喜びを感じる、秩序を乱したから制裁を加えられるといっても、そこには人と人との関係、あるいは人格的な交わりが存在しないままに善い悪いが決められます。それは違うのではないか、やはりそこには超越的な人格的存在、神様との対話があつてこそその「良心」ではないかと私は考えるようになりました。

良心教育を支える三つの柱

しかし、たとえば文化的に違う人や文化的背景の違う国との間でも、そこで語られる「良心」の持つ意味は異なるかもしれない。しかし、私は、交わるべき神様は本来一つだと思えます。ただ、そういう存在との対話に応じられないようなレベルにある人は、正しい判断ができません。教育、教養とは、そういう神の声、超自然的なものに応えられるような能力を培うことであり、それが超越した存在との対話を豊かなものにするのだと私は考えます。

新島は、まずそのためにはキリスト教について十分な理解をもつべきであると考えました。信じる、信じないは別として、キリスト教の正しい考え方、生き方を教えることが必要であると。同志社の建学理念であるキリスト教主義という第一のプリンシプルは、そこから生まれているのだと思います。また、今日の世界では国際的な感覚を抜きにして正常な対話はできません。そのために国際交流を盛んに行い、国際的な知識を豊かに

する。そこで初めて正しい対話ができ、そこから正しい答えが出されてくるのではない。私はこれが、同志社が国際主義を大切にする重要な理由だと考えております。この二つを同志社は教育の中に取り込んでおります。

これを踏まえて同志社では、幼稚園から高校まで、ほぼ毎日礼拝を行っております。大学にもキリスト教文化センターがあり、宗教教育を行っております。さらに各学校にもキリスト教専門の教員が配置されており、同志社の歴史および、同志社とキリスト教との関係をも教えています。それから法人としてキリスト教教育委員会を設置しており、同志社におけるキリスト教教育の重要性を自覚しながら、各学校からの委員が同志社のキリスト教教育について議論をしております。国際主義につきましても、新島は10年の海外生活のなかで、アメリカで学んだだけではなく、文部省の岩倉使節団の通訳としてヨーロッパを回り、いつそう国際感覚を磨いて帰ってまいりました。また、同志社は設立当時は、主として英語で授業を行っておりました。そういう意

味では「英語の同志社」と言われた時代もあったくらいでございまして、国際主義教育を戦後早くから展開しているわけです。現在も国際主義教育委員会を置いて、あるべき姿を追求するほか、大学は、文部科学省の「国際化拠点整備事業（グローバル30）」に採択されております。

さらに来年は国際学院を設置いたします。初等部と国際部とに分かれていますが、初等部は学校教育法第1条に基づき小学校で、国際部はいわゆるインターナショナルスクールです。初等部は6年間を通して約55%の授業を英語で行います。国際部は12年間、国際標準化されたカリキュラムで教育を行います。国際学院初等部・国際部は、まさに同志社の国際主義をより強化する学校になるものと期待しております。

良心以外の何ものにも

束縛されない 真の自由人たれ

新島はしばしば「元祖リベラリスト」と呼ばれます。神様と自分とが対話を行って物事を判断した以上は、この世の

諸々から解き放たれ、ひたすら良心的な判断に従って行動したという意味で、リベラリストであり、これが自治自立の精神です。これが今、一番日本人に不足しているとも言われています。皆、自由に生きているように見えて、本当は世間を気にしていたり、自ら判断することを実際はしていません。それは自由ではないか。それが今日の停滞した経済状況を生み出しているのではないとも言われています。

丸山真男という東京大学の有名な思想史学者の言葉に「良心なき自由」というものがあります。良心なき自由がはびこっている、戦後せっかく我々は自由を勝ち取ったのに、それをだめにしてしまっているのだと。非常に印象的な言葉です。いずれにしても、良心に基づき、神からの示唆、啓示を得られたら、それを忠実に守り、それ以外のものに束縛されないのが自由主義です。それが同志社では、さまざまな場面で尊重されていると私は思います。

私はそういう意味で、同志社のめざすべきものは、豊かなキリスト教の知識と

自治自立の精神を持ち、豊かな国際感覚を備え、それに基づいてこの世の桎梏から解放されて行動する生き方であると考えます。それを今や正面から謳うべきであつて、私はこのような精神で同志社が今後頑張っていく限り、世界に十分羽ばたける、そしてまた我々はそれを自覚して教育研究にあたるべきであらうと思えます。

函館の卒業生の皆様もどうか同志社の良心教育の原点に立ち返り、我々の理想をめざしながら生活を十分に謳歌していただき、仰いで天に恥じず伏して地に恥じず、良心を全身に充満させて、地の塩、世の光としてこれからの人生を歩んでいただければと思う次第でございます。本日はどうもありがとうございました。

（2010年6月13日、函館国際ホテル2階「鳳凰の間」での講演を編集し掲載）

講演



同志社創立135周年記念●「新島襄と同志社」

同志社の教学理念



大谷

同志社総長 實

ご存じのように同志社は、今から146年前に国禁を犯して脱国した新島襄が、苦難の末に牧師、宣教師の資格を取って帰国し、1875年に作った学校であります。脱国が発覚すれば切腹は免れない時代、まさに決死の覚悟で新天地へ出かけたのでございます。「同志社」とは目的を一つにする人たちの集まりという意味ですが、新島はこの校名を大変気に入っていたそうです。こうして最初はわずか教員2人、生徒8人でスタートした同志社は、現在、幼稚園から大学まで約4万1000人の学生、生徒、児童、園児の学ぶ一大総合学園となっております。同志社の大きな特色の一つに、幼稚園から大学までの一貫教育が挙げられます。しかし、ただ推薦によって上の学校へ進

めるというのは一貫教育の本来の意味ではありません。同志社の一貫教育の本質は、キリスト教主義、国際主義、自由主義に基づいた良心教育を行うところにあるのです。私は同志社の各学校の入学式でも良心教育について、いつも強く申し上げております。大学院の入学式でさえも、ロースクールでは良心を実践する弁護士や裁判官にならざる、ビジネススクールでは、もはやお金儲けの時代ではない、良心のあるビジネスを実践してほしいと話してまいりました。

2条には、「同志社は教育基本法および学校教育法に従い、キリスト教を徳育の基本とする学校を経営し、もって教育の実を挙げることを目的とする」と規定されています。そこで、同志社では幼稚園から高校まで、ほぼ毎日礼拝を行います。大学にもキリスト教文化センターに専任の教員が2人おられ、女子大学にも神学を専門とする教員3人がおられて、両キャンパスで礼拝を行っています。信徒であるかどうかは別といたしまして、キリスト教の教育を十分に行っているわけでございます。

「それでは同志社はミツシヨンスクールなですか」と尋ねられることが、よくあります。新島と共に同志社を興したJ.D.デイヴィスは当時アメリカン・ボー

ドから派遣されており、給与もそこから支払われていました。その意味では同志社はミツシヨンスクールでした。しかし新島は亡くなる約2年前、こう言いました。同志社のめざすところはキリスト教の布教よりも、もっと高い所にある。キリスト教の信仰は人の徳性を養い育て、品行を高尚ならしめ、精神を陶冶する。このキリスト教精神を身につけることが文明の基になる、そのためにキリスト教は大切なのだ。

私はクリスチャンですから、できれば同志社の皆さんにクリスチャンとしての信仰を持つ喜びを知っていただきたいという願いが、個人的にはございます。しかし信仰は自由であります。同志社の教職員、学生にクリスチャンはそれほど多くないのが現状でございます

が、キリスト教的な精神、考え方は非常に浸透していると思っております。もはやクリスチャンであるかどうかは問わないと言つてよいくらいです。同志社大学の今出川の門を入ったところに「良心碑」が立っています。「良心の全身に充満したる丈夫の起り来らん事を」と刻まれた碑は、同志社のいわば看板であると言つてよいでしょう。先ほどから何度か申し上げている、この「良心」とは何でしょうか。『広辞苑』で引くと、「良心」とは「何が善であり悪であるかを知らせ、善を命じ悪をしりぞける個人の道徳意識」とあります。しかし実は、これが難しい。特に価値観の多様化した現代では、何をもちて「良心」と言うかは判断の難しいところです。

英語で「良心」はconscienceです。conは「一緒に、共に」、scienceは「科学」です。科学は「知る」ことから出発します。これを整理しますと、一緒に知り合う、対話、話し合いによって物事を決めていくという意味になるでしょう。では、誰と話し合うのでしょうか。まず自己や他人と対話し、善悪の判断をす

る。それで答えが出なかった場合は神様との対話が必要になります。これが本来のconscienceの意味ではないでしょうか。キリスト教の神様との対話を通じて物事を考え、判断し、実行することが「良心」なのです。神様との対話、そこから出した結論にしか従わない。それ以外のことは縛られない。これが本当の自由ではないでしょうか。

同志社は今後もキリスト教に基づく教育を進めてまいります。同志社の教育を受けた人は、いま申し上げた良心に従って自由に生きられる、つまり主体的に行動できる人間になるでしょう。それが同志社で言う「自治自立」の精神に富む人であり、国際的な生き方をも実践できる人です。良心を手腕に運用する人物を輩出していくのが同志社の使命であり、この混迷の時代にこそ、それが必要なのだと我々は信じております。どうぞ我々の教学の理念をご理解いただき、今後ともますます同志社の発展にお力添えをいただければと存じます。

〈2010年5月29日、大丸京都店6階多目的ホールでの講演を編集し掲載〉



新島襄永眠の日の1月23日、神奈川県大磯町にある「新島襄先生終焉之地」碑庭園にて碑前祭を開催し、約110人が集いました。永眠時刻の14時20分に黙祷を捧げた後、讚美歌斉唱、大磯町詩吟連盟による詩吟和歌の朗詠、三好正則大磯町長らの挨拶、献花などが行われました。15時からは大磯町立福祉センターさざれ石にて、創立135周年記念行事として「大磯新島講座」を開催し、野本真也理事長が講演を行いました。

講演

新島襄の人と思想



野本真也
同志社理事長

新島襄を育てた 「キリスト教」を探る

新島襄は教科書にも日本の近代化に貢献した教育者として登場いたします。一般に新島の人格と思想を表すキーワードとしては、「民主主義、自治自立、志、良心、自由、愛、平和、真理、正義、人格尊重、女性尊重、自責の杖、国際友好、

愛人愛国、偶像不羈、知徳併行、私学設立、地方重視」などの言葉が挙げられると思います。このような新島の人格と思想はどのようにして形成されたのか。その基盤となるものは何であるのか。そのことを考える時に、私には忘れることのできない1冊の本がございます。

それは同志社大学神学部教授で歴史神学の専門家であった、魚木忠一先生の『新

島襄 人と思想』という伝記です。魚木先生は新島の人格と思想の基盤、原点について、こう書いておられます。「人間の尊貴、自由と良心、愛国の熱情と国際的精神は、先生の生涯を以て同胞の心裡に烙印された。少なくとも、日本の教育と教化に於ける新しい源流が此処に発することを認めねばならぬであろう。だが、それはヒューマニズムでなくして、クリ

スチアニズムであり、神の現実性の信仰を要石としたものであった。」

これはどういうことなのでしょう。

たとえば「民主主義」を新島は「平民主義」と言いました。妻や用務員さんを「さん」づけで呼んでいたのも、その例です。聖書には「人を偏り見ず」とあります。

また新島は、自分を「先生と呼ぶなかれ」とも言いました。マタイによる福音書23章8節、10節には「あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである」とあります。あるいは、新島が学生生徒一人ひとりをどんなに愛したかを示すものとして、「人ひとりは大切である」という言葉があります。これもまたイエス・キリストの、迷える一匹の羊を探し求める愛の教えを新島流に語った言葉ではないでしょうか。このように、新島の言葉、思想、行動や生き方の源流となるものを探ってまいりますと、聖書の教えやキリスト教に行き着くのです。

しかしキリスト教と言っても、いろいろな教会、教派、神学が生まれて現在に

至っています。神は一つであり、超越的な信仰の次元ではもちろんみな一つなのですが、現実という次元では多様で、いろいろな解釈が出てきます。そこで、新島がこれこそが大切なのだと思信していたキリスト教について明確に把握しておくことが、新島の志や同志社の歴史と現在を理解する上でとても重要なことではないかと、私は考えています。

新島がキリスト教と出会った契機は、最初は聖書、第二はアメリカでの主として「会衆派」と呼ばれるピューリタンのキリスト者たちとの深い交流、第三は教会やキリスト教に基づく学校での学びや、諸団体との交流でした。本日は新島の生涯を振り返りながら、新島の出会ったキリスト教の特徴を探ってみたいと思います。

自由への渴望から脱国まで

新島襄は、幕末の動乱が始まる前夜の天保14年、1843年、安中板倉家に仕える武士の家に生まれました。場所は江戸の神田一ツ橋にあった安中藩邸でした。幼名を七五三太と言い、6歳の頃から和漢の書などを、11歳から馬術や剣道など

の武術と漢学を学び、14歳からは蘭学を学び始めます。18歳の時、江戸湾に停泊していたオランダ軍艦を見て憂国の情と志を強め、幕府の軍艦操練所で航海術を学び始めました。いま大河ドラマで坂本龍馬が取り上げられています。歴史的に確かめることはできませんが、ひよっとすると、この操練所で新島は龍馬に会ったのかなという空想もいたします。

さて新島が20歳の時、備中松山藩がアメリカ製の木造洋式帆船、快風丸を購入します。この船が江戸から玉島へ回送される際、航海術や測量術を学んでいた新島は乗船を命じられて、約2ヵ月間の航海を初めて経験しました。新島はこの航海で精神的視野を大きく広げ、人生の大きな転機としたのです。そして21歳の時、快風丸による函館航海と脱国という、最大のチャンスが訪れます。玉島航海からの友人・加納格太郎から快風丸が函館に行くとの聞いた新島は、安中藩の目付役・飯田逸之助に会い、ついに藩主の許可を得ることができたのです。

玉島航海の後、次の航海までの間、新島はもう一つの新しい体験をします。聖書とキリスト教との出会いです。20歳の

時には漢訳聖書を読み、友人と共に聖書の会を開いていたという情報もあります。新島がボストンに着いた時、ワイルド・ローヴァー号の船主であったハーディー夫妻に宛てて英語で書いた「脱国の理由書」には、こうありました。

「神をわが天の御父と認めた以上、『もはや自分は父母のものではなくて、神のものだ』と断言した。父の家に強く私を縛りつけてきた強い絆は、その瞬間にばらばらになった。その時私は自分自身の道を進むべきだと感じたのだ。私は地上の両親よりも一層天の御父に仕えなくてはならぬ。この新しい考えが私を力づけ、私は断然藩主を見棄て、また一時的に家をも祖国をも離れる決意をしたのであった」

このように、新島は幕末の激変のただ中で国を憂い、蘭学を学び、ロビンソンクルーソーや聯邦志略を読み、欧米の知識を得たいという愛国の情と共に、同時に聖書を読み、「天の父」「創造者」という神信仰を知り、キリスト教を深く知りたいたいという思いから脱国したことが分かります。

函館に着いた新島は、しばらくロシア

よう。

新島が乗ったワイルド・ローヴァー号は1865年7月20日、ボストンに到着します。でもなかなか上陸の許可は下りません。10月初旬になって初めて、新島はテイラー船長の仲介によって船主のハーディーに会いました。しかし英語がうまく通じず、ハーディーは新島に「脱国の理由書」を書かせます。それを読んだハーディーは非常に感動して新島を引き受け、早速フィリップス・アカデミーに入学させました。実はハーディーも、若い時に宣教師になって外国で伝道する夢を持っていたそうです。彼は新島の志に感激し、自分の夢を託そうとしたのではないのでしょうか。ですから、親が子どもの成長と活動を援助するような思いを込めて、新島を懸命にサポートしてくださったのです。

ハーディーはフィリップス・アカデミーやアンドーヴァー神学校の理事をしており、アメリカン・ボードの有力メンバーで後には運営委員会議長となった人です。同志社設立後もずっと新島をアメリカン・ボードを通してはもちろんのこと、個人的にもフルサポートしてくれた、新

領事館でニコライのお世話になりますがいよいよ1864年6月14日夜半、福士卯之吉の斡旋で、函館港外に停泊中の米船ベルリン号に密かに乗り込んで脱国に成功しました。このように新島は親友の助けを借りて憂国の志を強め、実行していくことができたわけですが、新島はその後的人生においても友人との出会いと交わりをとりわけ大切にしていきました。そのように人間関係を大切にすることが、結果としてアメリカ留学を成功させ、同志社の設立を可能にすることになったのだと思います。後年、新島がこれらの経験を踏まえて、友人の大切さを説いた説教原稿も残っています。新島は「親友」と書くとき、常に「真友」、真の友と書いていますが、これもまた聖書に出てくる教えに基づくものでした。

新島が出会った 会衆主義のキリスト者たち

ベルリン号では、W・T・セイヴォー船長が新島を船長室の物置小屋にかくまってくれます。そして上海まで運んでくれた後、さらにワイルド・ローヴァー号のテイラー船長にバトンタッチしてく

島の「アメリカの父」です。またハーディー夫人のスーザンも非常に心の温かい人で、新島は「アメリカの母」と呼んでいました。「受けるよりも与える方が幸いである」というキリストの言葉を実践した夫人から、新島は多くを学んだのだと思います。

会衆主義教会の特徴

ハーディー夫妻はボストンのOld South Churchという教会の会員でした。この教会は、ピューリタンの流れを汲む「会衆主義」という教派に属していました。会衆主義の特徴は、個々の教会が信仰の自由と教会運営の決定権をもつという、自主自立を何よりも大切にすることにあります。そして聖書の教えに基づき、神と人とを愛することに徹しようとする教会でした。海外の貧しい人々を援助するための海外伝道団体アメリカン・ボードの主導的役割を担っており、これが新島と会衆主義のキリスト教との関係で重要な役割を果たしていきます。

フィリップス・アカデミーは1778年に会衆主義教会がつくった高等学校です。今でも非常にレベルが高く、現在は

れます。新島はベルリン号の中で英語を学び、乗船10日目には船員から聖書を借りて読み始めました。

セイヴォーリーは会衆主義第一教会の教員でした。ところが新島を密航させたことが露見し、後に解雇されてしまいました。彼は翌年、ボストンに着いた新島を訪ねて非常に喜んでくれましたが、自分が解雇されたことは新島には言いませんでした。新島は後になって真実を知りますが、このような心意気と言いまじょうか、自分だけの利害からまったく自由な、温かい愛の心をもったキリスト者と出会うことで、新島はキリスト教の何たるかを具体的に経験したのでです。

上海でワイルド・ローヴァー号に乗り換えた新島は船長室のボーイをしながら、1864年7月9日から翌年10月11日までの1年3カ月間、上海からボストンまでを船上で過ごしました。乗船後2日目に、テイラー船長は新島を「ヨセフ」と呼びこにします。創世記37章に出てくるヨセフ、Josephの略称です。テイラーは、奴隸から大臣にまでなったヨセフのように神の導きが新島の上にあることを願って、おそろくこの名前をつけてくれたのでし

同志社国際中学校・高等学校も交流を行っています。フィリップス・アカデミーの憲章には、「この学校の教育目的は生きることの大きな目的と真の務めを教えることである。…この学校の最初で第一の目的は真の敬神と徳を増進させることである」とあります。「自分自身のためではなく」という言葉が標句になっている学校です。新島はこの学校で学んでいた1866年12月30日、会衆主義教会の神学校としてはアメリカ最古の学校、アンドーヴァー神学校付属の会衆派教会で洗礼を受けました。

1867年9月から新島はアーモスト大学で学び始めます。この大学も1821年に会衆主義教会が設立した、アメリカでは古いカレッジで、現在でも非常に高いレベルの教育を行っています。ハーディーの推薦もあり、新島の入学当初からホスト・ファミリーとなつて新島を息子のよう大切にしてくれたのが、道徳哲学教授のシーリーと夫人のエリザベスで、新島は人格形成において彼らから大きな影響を受けました。フィリップス・アカデミー時代の新島を2年間ホームステイさせてくれたM・E・ヒドゥンに続

き、このエリザベスが新島のアメリカの母、第三の母となります。

新島は3年後にアーモストを卒業し、日本で最初の理学士となります。そしてアンドーヴァー神学校に入学し、神の前で良心を研ぎ澄まし、自由と愛を大切に生きる指針となる神学を徹底的に学び取ります。ここでニューイングランド神学を教えていたパーク教授は会衆派神学の代表者で、新島は神学的に最も影響を受けました。

私の学生時代の総長であり、組織神学の先生でもあった大塚節治先生は、「ニューイングランド神学によれば、人間の自由は人格の中核をなしており、『人間の肉面的意思の自由を意味し、道徳的責任の主体として人間に本質的なもので、キリスト・イエスにあつてもつ自由であり、良心に束縛された自由』である。」と語っています。自由といつてもわがままに振る舞うのではなく、超越的な存在である神の意志に従い良心を研ぎ澄まし、キリストによつてエゴという罪から解放されるという意味での自由です。『同志社百年史』には「新島の思想の中で重要な自由及び良心の概念は、このような二

ューイングランド神学との関係で理解されなければならない」と書かれています。このことは、私たちが忘れてはならない大切な点であろうと思います。

新島はこの頃から、日本へ帰ってキリスト教を伝えたいと願いますが、密航の罪に問われること、あるいはクリスチャンであるために逮捕されることを恐れていました。しかし1871年3月、思い切ってワシントンに駐在していた森有礼に会いに行き、ようやく8月に正式のパスポートと留学免許状を受け取ることができました。もちろん新島の勉学態度などが評価されたわけですが、このために翌年3月、新島は岩倉使節団から欧米の教育事情の視察について協力を依頼され、田中不二麿文部理事官の通訳として働くことになります。

新島はその際、政府の役人になることを要請されましたが、それを受けてしまうと政府の奴隷となるのではないか、自分はいくまでもキリストにある自由人なのだと要請を断り、自由な立場で岩倉使節団に参加しました。こうして約1年半、使節団と共にアメリカやヨーロッパの教育、文化、医療、社会福祉などを視察し

ながら、びつしりと「理事功程」という報告書も書いています。また新島は、各地でさまざまな教派の教会も訪ねました。これらの体験を比較する中で、やはり会衆主義こそが、自分が理解しているキリスト教の中で最もふさわしい神学であり、教会の制度であると確信して、日本に帰ってきたのです。

愛と情熱の浄財を得て 同志社創立へ

1873年9月に新島はアンドーヴァー神学校に復学し、翌年7月に卒業します。そして9月24日には正式に牧師となります。同年10月にラットランドのグレース会衆主義教会で開催されたアメリカン・ボード第65回年次大会で、新島は海外伝道に向かう宣教師として会衆に挨拶をしました。そのとき新島は初めて、日本にキリスト教主義の学校をぜひとも設立したいと涙ながらに訴え、寄付を募りました。その場でほぼ5000ドルが集まりましたが、一人の年老いた農夫が自分の汽車賃の2ドルを寄付した出来事は特によく知られています。老農夫は、新島が帰国して働くこうとしている日本で既

に神が働いておられ、そこに自分も参加させていたきたいという神への奉仕のスピリットをもって、2ドルを捧げたに違いありません。後に新島は、この2ドルの精神こそは同志社の中核であると言っています。



このように、新島はアメリカで多くの会衆主義教会の人々と出会い、会衆主義の学校や教会や団体を通して人間的な交わりや学問、信仰の研鑽をしていきました。そして彼らの人格や思想の感化を受け、いかにキリストの教えが自由と自治の精神をもたらし、愛の連帯を生みだすものであるかを身をもって経験し、そのような貴重な経験をした最初の日本人として自らも会衆主義の牧師となり、アメリカン・ボードの宣教師の一人となって日本へ帰国したのです。もし新島がこのような経験をしなければ、自由と自治を大切にする教会を日本各地に設立し、さらにそのための牧師を養成するだけでなく、真誠の自由を愛し、良心を手腕に運用する人間を育成するためのキリスト教主義の学校を設立しようとする志は、彼の心の中に芽生えなかったに違いありません。

新島はコロラド号に乗り、1874年11月26日、横浜に着きました。翌年正月には早速キリスト教主義の学校の設立に取りかかります。最初は大阪に学校を作ろうと考えますが、いろいろな困難に遭遇し、4月に京都へ行きます。京都府の

槇村知事の紹介で京都府顧問の山本覚馬に会ったところ、漢文のキリスト教解説書を読んでいた山本覚馬は直ちに新島の志に賛同しました。そして8月4日には、山本覚馬と新島はデイヴィス宣教師の賛助を得て同志社を結社し、私塾開業願を京都府に提出します。こうして1875年11月29日、同志社英学校を開校いたします。翌年には熊本洋学校から学生たちが同志社へ入ってきました。かれらは熊本バンドと呼ばれ、同志社を卒業後、同志社と日本のキリスト教会のリーダーとして活躍しました。

新島は同時にキリスト教の伝道活動を展開し、さらには医療のための教育や病院の設立を実行します。教育、伝道、医療の三つの領域で神の愛の働きを現実のものとしていくというのが、キリスト教の伝統的な使命だったからです。同志社開校の翌年、既に新島は宣教師を招いて医学教育を始めています。大学設立にあたっては医学部の設置をめざしていましたが、科学一辺倒ではなく、心の病をも治す医学が新島の理想でした。現代になり、同志社女子大学は2005年に薬学部を設置し、同志社大学も2008年に

生命医科学部を開設することで、新島の志を何とかして受け継いでいきたいと努めているところでございます。

新島の「良心、自由、愛」

新島が同志社の立学の精神としたキリスト教主義とは、いったいどういうものなのでしょう。新島はその中身を誰でも分かるような言葉で言い表しています。それが、良心、自由、愛というキーワードです。

私たちは誰でも心の中をちよつと振り返ってみると、良心をもっていることに気付きます。ただ、それを心の奥深くに閉じこめて眠らせているか、それとも常に目覚めさせ実際に働かせているかによって、生き方はまるで変わってきます。ですから良心とは、神の心を照らす心の鏡のようなものであると理解するのと同じです。この良心を目覚めさせ、実際に働かせて生きる人間教育が、新島の考えたキリスト教主義教育の重要なねらいでした。新島はこの「良心」というキーワードをアメリカ滞在中から既に使用しています。それは、新島が当時使用していた英語の聖書に数多く出てくるキ

ワードであり、アンドルーアー神学校で学んだニューイングランド神学の重要概念だったからです。片仮名で「コンシヨンス」と書いた手紙が残っています。

二つめのキーワードは愛です。新島は、仙台で説教をした時、「耶蘇教は、何ぞと人、問われたれば、答えていわん。愛もつてこれを貫く」と語りました。新島は「真神之道愛以貫之（しんしんのみちはあいもつてこれをつらぬく）」という書を残していますが、この言葉の背後にあるのは「吾道一以貫之（わがみちはいつもつてこれをつらぬく）」という、論語に出てくる孔子の言葉です。孔子の言う「一」は「仁」という、キリスト教でいう「愛」に通じる概念です。キリスト教の福音はその土地の精神的伝統に触発され、その土地に受肉し、その土地にふさわしい姿を現すという、最初に申し上げた魚木忠一先生の教えに即して言えば、新島はこの孔子の言葉に触発されて、キリスト教の真髄を分かりやすく端的に言い換えたのではないのでしょうか。

三つめのキーワードは自由です。新島は晩年「自分の生涯の目的は、自由教育、自治教会、両者併行、国家万歳」である

と、弟子たちに書き送っています。自由教育とは学生の自主性を重んじる教育で、新島自身がアーモスト大学で体験した教育方針でした。教え子の一人、露無文治は、同志社の教育を「どこまでも啓発自習主義で、教師が教えるというよりも、むしろ生徒が自ら学ぶ」ものであったと回想しています。

もちろんこの自由の概念は、「真理はあなたがたに自由を得させる」という、聖書にあるキリストの言葉に基づいています。真理とはキリストを指します。キリストは人間誰もが持つエゴという罪の奴隷からの自由を得させてくれる、という意味です。そう考えますと、現代の私たちの自由は、虚偽の自由であると言えるのではないのでしょうか。

新島が自由教育と共に生涯の目的としたのが、会衆主義の教会観に基づく「自治教会」でした。そこで1886年頃から、長老派の教会と会衆主義の教会との間で教会合同運動が起こったところ、新島はこれに強く反対しました。長老派教会は個々の教会のレベルでは会衆主義教会と同じところもありますが、やはり貴族主義的な政治体制であり、会衆主義の

ように自由自治の民主的な組織ではなかったからです。拙速に合同すれば長老派に飲み込まれてしまい、会衆主義の伝統は失われてしまうと新島は異議を唱え、教え子や宣教師と対立して悩んだのです。

新島は遺言の第2項で、「同志社教育の目的は、神学、政治、文学、自然科学などいずれの分野に従事するにせよ、どれもはつらつたる精神力があつて真誠の自由を愛し、それによって国家につくすことができる人物の養成に努めること」と言い残しました。この「真誠の自由を愛し」の部分は、原本では欄外に後から書き足されています。その時、新島はこう語ったそうです。「世に真正（真誠）の自由を愛するもの鮮し、否な我黨の人士に於てすら全く此の眞味を解し得たるもの多からず、豈に嘆ぜざる可けん哉と」。自由とは、新島にとってそれほど大事だったということです。そして新島は1890年1月23日午後2時20分、大磯の百足屋で永眠しました。

苦悩の人、信仰の人、志の人

こうして新島襄の生涯を振り返る時、新島は「苦悩の人」であつたと私は思い

ます。病気にも悩まされましたし、「京都府の不親切なる策略」「外人来京を拒みたる事」「外国教師と内国教員のきれつ」「外人と生徒の不折り合い」「生徒の脱走」等々、自分の苦悩を書き残しています。

もちろん新島は、それ以上に「信仰の人」でした。有名なのは、同志社英学校第1回卒業式で新島が贈った祝福の言葉です。Go, go, go in peace. Be strong! Mysterious Hand guide you! このミステリアス・ハンドを新島は後に「神妙の巧手」と呼んでいます。あるいは「Unseen Hand」「真神の御手」とも言っています。が、これらは「見えざる御手」というキリスト教の神の導きを表す伝統的な表現です。新島は本来にこのミステリアス・ハンドの導きにすべてを委ねる信仰によって、同志社を創設し、各地に会衆派の教会を設立しました。この神の御手への信頼が新島と出会う人々に感動を与えたのだと思います。

また新島は、「千里に駆ける志」を抱いて脱国し、志を同じくする者の結社として「同志社」を設立し、全国に教会を設立する志をもち、そして晩年はキリス

ト教主義大学を設立する志をもち続けた、まさに「志の人」でもありました。現在の日本も世界も、教育観や宗教観が極度に多様化して、混乱と迷迷の度合いが深まっています。その結果、人間としての真のあるべき姿が見失われようとしています。それだけに、かつて新島が出会った「キリスト教」の最も良質の部分を再発見し、新島の志を継承し、真誠の自由と愛を実現するために、良心を手腕に運用する人間を育成することが、同志社にとつてますます重要な使命となっていることを改めて痛感させられています。

かつて新島は勝海舟から、同志社の完成までに何年かかるのかと尋ねられた時、200年と答えました。同志社は今年創立135年。まだ新島の志の本当の中身を実現する道の、半ばに達しているかどうかというところです。私たちは今後とも新島の志を継承してまいります。今後とも皆様の温かいご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

〈2010年1月23日、大磯町立福祉センター「さざれ石」での講演を編集し掲載〉

講演



同志社創立135周年記念
「函館新島講座」脱国の地において

新島襄の志



野本 真也
同志社理事長

新島襄は「志の人」でした。そして同志社は志を同じくする者たちの結社としてスタートし、135年の歴史を歩んできました。新島は、本人の言葉によると「封建制度がしつかり根をおろしていた頃」、江戸で武士の家に生まれました。江戸という日本の中枢と幕末という時代に生まれ育ったからこそ、新島は徳川幕藩体制の崩壊と新しい時代の胎動を体感することができ、憂国の情と志を立てることができたと言えます。

彼の一大転機となったのは20歳の時の体験でした。備中松山藩がアメリカ製の洋式帆船を購入したのですが、それが本日、函館市に模型を寄贈いたしました「快風丸」です。この船が江戸から玉島へ回送されることになり、軍艦操練所で学んだ新島は乗船を命じられました。その時

のことは日記「玉島紀行」に書き残されており、彼がいかに素晴らしい「自由の体験」をしたかが回想されています。そして新島は21歳の時、快風丸で函館に向かい、1864年6月14日夜半、米船ペルリン号に乗り込んで脱国を果たしたのです。

憂国の情から脱国した新島は、さまざまなところで「志」という言葉を使っています。ペルリン号からワイルド・ローヴァー号に乗り換えて香港で停泊していた時は、このような漢詩を詠んでいます。「男児志を決して千里を馳す 自ら辛苦を嘗む 豈家を思わんや 却つて笑う春風雨を吹くの夜 枕頭なお夢む故郷の花」。彼は英語でもaimという言葉を何回も使っています。密航を手伝ってくれた福士卯之吉に宛てた手紙には「Let me

reach my aim、など書き、ワイルド・ローヴァー号のテイラー船長に宛てた文章ではmy great aim、まさに大志という表現もしています。

憂国の情と同時に、新島にはもう一つの志がありました。聖書とキリスト教を学ぶという志です。新島は神を「わが天の御父」と認め、自分の進むべき道を決め、もつと深くキリスト教を勉強したいという志を立てました。ワイルド・ローヴァー号の船主ハーディーへの手紙には「Let me be civilized with Bible」と書いています。「神様、どうか聖書によつて私を文明化してください、教養あるものにしてください」と訳せばよいでしょう。

アメリカに渡ってフィリップス・アカデミー、アーモスト大学、アンドーヴァ

ー神学校で学んだ新島は、1874年9月に正式の牧師となり、いよいよ宣教師として日本に帰る日が近づいてきました。翌月開催されたアメリカン・ボードの年次大会で新島が「私はキリスト教主義の大学を建てる金なしには日本に帰ることが出来ません。それを得るまでこの演壇の前に立たせて頂きます」と会衆に訴えたところ、たちまち知事などの有力者から年老いた農夫にいたるまでの人々が寄付を捧げ、5000ドルが集まりました。

アメリカのキリスト者たちは、どうしてこのように日本伝道のため、多額の献金をしてくださったのでしょうか。なぜ

ペルリン号のセイヴォー船長は、命がけて聖書とキリスト教を勉強したいという新島の志を受け止め、引き受けてくれたのでしょうか。テイラー船長が新島を船長室付きのボーイとして

雇い、創世記のヨセフ物語に因んで「この名を与えたのはなぜか。また、新島が書いた「脱国の理由書」を読んだハーディーが非常に感動して、キリスト教を学ぶ機会を与えるためにフィリップス・アカデミーに新島を入学させ、彼を生涯支えたのはなぜでしょうか。それは、神やキリストがこの世界に関わる時は貧しい人の姿をとり、貧しい人と共に苦しむような仕方であり、愛が必要とされるところに、私たち人間に先行して働いておられるのだという信仰が基本になつており、貧しい人々への慈善や愛の行為は、神様に仕え、神様の愛に応えることにほかならないという考えがあつたからなのです。当時の日本はアメリカから見れば混乱の中にありました。ちょうど現代、私たちが貧しい国々の状況を見聞きする時の思いと同じだったのではないのでしょうか。

1874年11月に帰国した新島は、翌年11月29日、山本覚馬と宣教師デイヴィスと共に同志社英学校を開校します。女性教育の志も抱いていた新島はその翌年に女子塾を開設し、渡米した際は女性宣教師になる学生を探しに有名女子大学を訪れるなどしています。さらに新島は医学教育の志を温め、医学部設置の目的を「貧しい人を助けて…心の病気にいたるまで治療することを目指し、…人間最上の喜びと幸せをもたらすようにすることが真の医学である」と云うべきであり」と述べています。既に現代医療の問題点を見抜き、本当の意味での医学を教育できる場所を夢見ていたのです。

しかし大学設立の募金運動がなかなか進まない中、新島は病に倒れます。それでも大学設立の志は「天下に飛雄する」と、嘆きの言葉を手紙に残しています。新島は自分が長くないと知った時、「だれか余の志を継ぎ、この事業を成就せしむるあるべし」と教え子たちに問いかけました。そして現在の同志社は寄附行為の中に「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、キリスト教を徳育の基本とする学校を経営し」という文言をきちんと入れて、彼の志を継承しようとしています。私たちは今後も新島の志を継承し、教職員で共有しながら、精一杯の努力をしてまいりたいと存じます。

（2010年6月13日、函館国際ホテル2階「鳳凰の間」での講演を編集し掲載）



同志社創立135周年記念●「新島襄と同志社」

5月26日から31日にかけての6日間、大丸京都店6階多目的ホールにて創立135周年記念「新島襄と同志社」を開催し、期間中に約6000人の方がご来場くださいました。会場では新島襄の生涯と同志社の歩みに関する各種資料や写真パネルなどが展示されたほか、メキシコ五輪・ボート競技に出場した同志社大学クルーの使用艇「Wild Rover IV世号」が注目を集めました。

講演

同志社大学の改革 —2013年に向けて



八田 英二
大学長

新島襄と同志社 —草創期から医学部開設の夢まで

私が学長になりましたのは1998年でございました。その2年後が学校法人同志社設立125周年でした。ちょうどその時もこの場で、「これからの同志社

大学」というようなタイトルで講演をさせていただいたと思います。それから10年が経ちました。ひと昔と言いますが、この10年で同志社大学も随分と変わってまいりました。そして2013年には、同志社大学が大きく変わります。私の第5期目の任期も2013年3月で終わります。

まずので、この5期目の3年間は、私の学長としての総仕上げの時期ではないかと考えております。同志社大学は学校法人同志社の一部であり、どのような位置づけになっているのでしょうか。少しお話しさせていただきます。同志社英学校は

ご存じのように新島襄先生が、明治8年、1875年に作られた学校です。新島は1843年2月12日に生まれました。東京の二ツ橋交差点に学士会館という建物があり、その横に「新島襄先生生誕之地」碑があり、毎年2月になると関係者が集まって讚美歌を歌い、先生を偲んでおります。

そして1864年、新島は21歳の時に函館から脱国します。江戸からまず函館へ船で行き、そこで約1カ月を過ごし、脱国のための船を探したと言います。いよいよ海外へ旅立とうという時に詠んだ歌をご紹介します。

「武士の思ひ竜田の山紅葉 にしき着ざればなど帰るべき」

故郷に錦を飾るという意味の、力強い歌です。そして函館から上海に移り、ちょうど1年かけてボストンに到着しました。フィリップス・アカデミーで学んだ後、ボストンから車で1時間半ほど行ったところにあるアーモスト大学で新島は学びました。大学附属の同志社小学校ではアメリカへ修学旅行に行き、このアーモスト大学の寮とボストンに滞在するこ

とになっております。本来ならば昨年初めて修学旅行が実施されるはずでしたが、ご存じのように新型インフルエンザの影響で中止になり、今年初めて実現いたします。

さて、アーモスト大学で新島は理学士の学位を取りました。海外の大学で理学士の学位を取った日本人は新島が初めてでした。その後、新島はアンドーヴァー神学校で学び、宣教師の資格を手に入れます。新島は教育者であると同時に宗教家であり、キリスト教に基づく学校を作りたいという思いを強くしておりました。しかも彼は教養的なリベラル・アーツ・カレッジを卒業しましたので、大学の持つ重要な社会的使命は二つあると考えていました。学術技芸の知識の教授と、人格形成です。キリスト教主義に基づいて人格形成に寄与したいというのが、彼の大学設立の大きな夢でございました。同志社はキリスト教主義に基づく「良心教育」を、あらゆる教育の根幹に置いております。これが小学校から大学までの基本的な考え方でございます。

1874年10月11日、アメリカ・バー

モントラットランドのグレイス教会で、宣教師派遣団体アメリカン・ボード海外伝道部の年次大会が開かれました。宣教師として日本へ出発する直前だった新島は、ここで演説を行いました。本来は原稿を用意していたらしいのですが、突然彼は原稿なしで、自分は日本にキリスト教主義大学を作りたいと切実に訴え、聴衆から寄付を募っております。当時のエピソードとして幾度となく語られてきたことですが、その中で彼が最も印象に残った寄付は、農夫の方から差し出された汽車賃の2ドルでした。自分は歩いて帰れるから、これを日本のキリスト教主義大学の設立に使ってほしいと。この2ドルほどありがたかった寄付はなかったと、後に新島は述懐しております。この時、都合5000ドルほどの寄付をいただき、新島はアメリカから日本へ帰ってきました。

そして1875年11月29日、寺町丸太町を上がったところにある、新島旧邸のあたりに、8人の生徒と2人の教師によって同志社英学校が開校されました。この手作りの本場に小さな学校が、学校法

人同志社の起源でございます。毎年学生は増えていきましたが、英学校の卒業生の大半は旧制の帝国大学あるいは他の大学へ進みました。同志社が高等教育までを担当する体制になつていなかったからです。新島は何とか大学を作りたいという思いをますます強くしておりました。1888年に発表した「同志社大学設立の旨意」で、自分はどういう大学を作りたいのかという考えを世に問うております。

ただ残念なことに、大学という形で新島の悲願が実つたのは1912年でございます。この年、専門学校令による同志社大学が誕生しました。新島が47歳で亡くなったのは1890年でございますから、彼の死後22年が経っておりまして。そういう意味では、学校法人同志社は創立135年ですが、同志社大学としましては現在98年目ということになります。しかし専門学校令による大学では帝国大学のように兵役が免除されなかったため、若者は同志社よりは帝国大学へ行く傾向にありました。そこで何とか大学令による大学になつて帝国大学と同じような特

典をいただきたいという運動を強めた結果、ようやく1920年、大学令による同志社大学が開校いたしました。ちょうど今年で90年です。その時は文学部と法学部の2学部でした。

さて新島は、かねてから医学部を作りたいという思いを強くしておりました。同志社は1890年の少し前には、看護婦学校という看護師学校や同志社病院を持つておりました。ただ新島の死後、アメリカン・ボードとの間で問題が生じ、看病婦学校や病院は閉鎖や譲渡となりました。私があちらこちらで講演をしますと、「同志社大学は医学部を作らないのですか」と言われることがあります。あるいは「いつ京都府立医科大学を買うのでしょうか」と尋ねられることもあります。なかなか買えるものではないです。日本大学の総長や慶應大学の塾長と話しておりますと、医学部のためにだいたい20億から30億円を持ち出していると聞きます。文部科学省は医学部、歯学部、獣医学部、船舶職員養成学部の新設を認めないことになつておりましたが、民主党になりましてから解禁されるという話

が出ております。栃木県では国際医療福祉大学が医学部新設の申請準備をし、既にカリキュラムも作つておられます。そこが申請第1号になるだろうと言われております。

京田辺校地誕生と 今出川校地回帰の背景

戦後、1948年に同志社大学は新制大学となつて神、文、法、経済学部を開設し、翌49年には商、工学部を新設しました。以来、2004年までの55年間、この6学部体制が続きました。そして1986年には京田辺校地を開校し、現在につながる教育体制を構築いたしました。1986年当初、京田辺校地では神、文、法、経済、商、工学部の6学部の1、2年次生が学んでいましたが、94年には工学部3、4年次生と大学院工学研究科の全学年が京田辺校地に統合移転いたしました。

大学の都市集中を避けるため、いわゆる「工業（場）等制限法」によつて、首都圏と近畿圏の主要都市では1964年から大学の施設、増設が制限され、各大

学は郊外にキャンパスを展開せざるを得ない状況となりました。同志社大学でも今出川キャンパスが非常に狭くなったにも拘わらず、新しい校舎の建設が困難になりました。そのうえ京都市の高さ制限では、新しく建てても、せいぜい31mが

限度。8、9階建てです。東京では30階建てなどの非常に高い建物を造つた大学もあります。しかも理科系学部は設備をどんどん新しくする必要があるので、排水処理に対する規制も京都市は非常に厳しいという背景がありました。このため同志社だけでなく他大学でも、特に理科系学部が京都市内で展開を図ることは非常に困難だったので。

2002年にこの規制が廃止され、京都市内への回帰が可能となりました。また、同志社中学校が岩倉校地に2010年に移転することになり、その跡地を大学が利用することになりました。同志社大学ではこれを教育・研究環境の更なる充実の絶好の機会と捉え、教学体制の再構築に着手した次第でございます。

21世紀の大学再編 ―13番目の学部誕生まで―

同志社大学は21世紀に入り、社会の要請に応える形で2004年、実に55年ぶりに7番目の学部である政策学部を開設いたしました。これは今出川で4年間、教育・研究を行う学部です。この少子化

の時代では、学部を増やしても大学全体の入学定員を増やすことはできないというところで、法学部の入学定員100名、経済・商学部の各150名を減らして、計400名の定員でスタートいたしました。

同年には、これからは大学院の時代であると考え、ロースクール、ビジネススクールという二つの専門職大学院を開設いたしました。場所は当初、同志社中学校を移転した跡地を考えておりましたが、烏丸通りにありました学生会館を解体して寒梅館とし、3、4階にこれらの大学院が入りました。

この年は全国各地にロースクールができました。当初はロースクールで学べば7、8割は司法試験に合格すると見られていましたが、結局乱立気味となり、現在、新司法試験の合格率は平均して30%を切っております。定員割れや閉鎖となつたロースクールもあります。同志社のロースクールでは昨年、新司法試験に45人が合格いたしました。その前年が59人。だいたいそのくらいの人数が毎年合格して、弁護士あるいは検事の卵となつてお



ります。

2005年には、さらに二つの学部を開設しました。文学部から分離させた社会学部と、京田辺で4年間教育・研究を行う文化情報学部です。文化情報学部の一つのセールスポイントは鳩山由紀夫さんに客員教授となっていたいたことです。昨年首相になられ、兼職はできないということで辞められましたが、また辞任されたらお呼びしようかと考えております。これで同志社大学の学部は九つになりました。

2006年4月には、大学附属として同志社小学校が岩倉に開校いたしました。法人内の学校はすべて独立採算制ですが、この小学校は唯一、大学が運営に責任を持つ附属という形です。岩倉にありました大学の野球場と高等学校のサッカー場を交換し、高松伸さんの設計で校舎を造りました。今年の3月に第1期生が卒業し、大多数が同志社中学校に進んでおります。

2008年には10番目と11番目の学部、スポーツ健康科学部と生命医科学部を開設いたしました。これら2学部は京田辺

校地で4年間を送ります。生命医科学部では医学と工学の合間の分野あるいは基礎医学を教育・研究いたします。

2009年には12番目として、心理学部が文学部から分離しました。これで現在、同志社大学は12学部体制となっています。他方で同年4月から、神学部と社会学部の1、2年次生がキャンパス再編に先駆けて今出川校地で学部体制になっております。

新時代を迎える国際主義教育

さて、来年はグローバル・コミュニケーション学部という13番目の学部を京田辺校地に開設いたします。英語と中国語の専門家の養成が目的で、英語コースが80人、中国語コースは40人を募集する予定です。必ず2年次で1年間、英語あるいは中国語圏の大学に留学することになっています。

2011年4月には、同志社大学の新たな附属小学校、同志社国際学院が開校いたします。初等部と国際部があり、正規の小学校とインターナショナルスクールとが同居するという、全国初の試みで

ございます。校地には木津川市から3・3haという土地を無償でご提供いただきました。こちら高松伸さんの設計で建設を進めていますので、ユニークな建物になると思われます。木津川台に行かれましたら、ぜひともご覧ください。

初等部は普通の小学校で6年制です。6年間平均して、英語による授業を全体の55%と予定しております。初等部を卒業するお子さんは日英バイリンガルとなることが期待されます。大多数は同志社国際中学校に進まれるものと思います。

国際部はいわゆるインターナショナルスクールで、外国人のお子さんを12年間教育します。最後の学年には国際バカロレアという大学の入学資格を得ることを目標とします。音楽などの科目では両校共通の授業も行う予定です。

このように、同志社大学の国際化は急速に進みつつあります。同志社は教育理念として自由主義、キリスト教主義、国際主義を掲げており、国際主義の追求という面では、語学に強い学生が上に進み、大学にも良い影響を与えるものと期待しております。

2013年、 烏丸今出川が変わる

同志社大学では、学年の進捗とともに校地が変わる学部横割り型の教育を展開していた2校地体制を改め、それぞれの校地の特色を明確に位置づけたうえで学部教育の一つの校地で一貫させ、教育効果を高めることを目指してまいりました。そして先ほども申しあげましたように、2013年4月には文系学部の1、2年次生の勉学校地の変更を終えます。これから教養体制再編の最終段階として、同志社中学校が移転する2010年には今出川校地の再整備に着手いたします。今年8月には同志社中学校が岩倉に移転し、同志社高校と統合いたします。これで岩倉校地には小学校、中学校、高校が揃いました。同志社幼稚園に入園すると推薦で同志社小学校に進学できますので、幼稚園から大学まで進まれると19年を同志社で過ごされることになります。今出川にありました中学校の建物は彰栄館とチャペル以外をすべて取り壊し、中学校の元運動場を活用して大学が建物を建てる

予定です。

また、烏丸上立売を少し北へ行ったところにある歩道橋の東に、かつての京都市染織試験場の、8000㎡弱の市有地がございます。同志社大学では京都市と交渉し、今出川に帰ってくる文系1、2年生のためにこの土地を売っていただきました。中学校跡と染織試験場跡を併せますと、述べ床面積5万5000㎡になる予定です。ただ中学校の運動場はご存じのように足利幕府のあった「花の御所」の跡ですから、発掘調査に時間とお金がかかるのは確かです。既に部分的な調査が始まっており、すぐに記録を取って埋め戻すことになると思いますが、秋からは本格的に発掘調査を行います。こうして2013年の春には素晴らしい建物ができることになっております。中学校の烏丸沿いの塀も取り壊し、地域と一体化して、あまり大学の壁を感じさせないような形を考えております。伝統的に同志社はレンガ造りですから、新しい建物もレンガ造りで統一する予定です。

2013年には同時に、いま京田辺校地で授業を行っている文、法、経済、商

学部の1、2年生、約8000人が今出川校地に帰ってまいります。文系学部は4年間を今出川で、理工系学部は4年間を京田辺で過ごすことになり、完全に学部によって別のキャンパスで過ごすことになります。キーワードで言いますと、今出川は「教養教育」「国際主義」「文系」、京田辺は「先端技術」「生命」「情報」「健康」。もちろん、どちらも同志社教育を行うことに変わりはございません。同志社科目などのいわゆる一般教育科目などで、同志社のアイデンティティ、良心を教える教育を進めてまいります。今出川と京田辺の間には無料シャトルバスを走らせ、2校地の学生たちが積極的に交流できるようにしたいと考えております。こうして2013年には今出川校地にかなりスペースができますので、14番目の学部を作る計画があります。「*グローバル地域文化学部（仮称）」で、南北アメリカ、アジア、ヨーロッパそれぞれの地域の教育・研究をするものです。これによって、今出川校地は8学部10研究科、京田辺校地は6学部5研究科、大学全体では14学部と15の研究科という体制

ができあがる見込みです。

地域に開かれた大学づくり

今出川と烏丸のキャンパス整備が完了しますと、今までかなり閑散としていた烏丸今出川近辺にも、再び学生文化が開花するのではないのでしょうか。学生たちが帰ってくるということで、付近では新しく学生マンションを建てる計画も進んでいるそうです。学生が大勢今出川に来ますから、逆に京田辺は大変であろうと思いますが、大学生生き残りの厳しい時代、どこで教育を行うかということも大きな要素ではないかと思っています。

京都は昔から大学の街であり、特に学生は「学生さん」と呼ばれて大事にされてきました。いま京都市民は約148万人、学生数が15万人。そこへ8000人が帰ってきますので、学生たちにはもつと地域と交流してほしいと願っております。マンションでお風呂に入り、コンビニで買い物をする。それだけでは学生の街としてふさわしくないのではないかと。そう考えて、同志社大学では現在、幾つかの町家を借りて学生を派遣し、地域と

の交流を進めているところでございます。

大学は地域と共に生きていくものです。少なくとも同志社大学は、地域に開かれた大学でありたいと私は考えております。日曜も門は開いておりますし、土曜日には、学生アルバイトが大学を案内する「キャンパス・ツアー」を実施しております。教室も一部を市民の方が使えるようにしており、積極的に公開講座も行っております。創立135年を迎える同志社は、今まで京都に育てていただきました。大学でも、今後とも持てる資源を活用して、地域の皆様と共に歩んでまいりたいと考えております。

三つの教育理念のもと 人格形成に寄与できる 大学を目指す

このように同志社大学では21世紀に入り、新しい教育組織の増設という、ハード面での改革に取り組んでまいりました。加えて、教学体制の再構築を、単なる校地・施設の整備に終わらせては教育・研究の質的向上は望めませんので、並行してソフト面の充実と抜本的改革に取り組

んでおります。

しかし私たちは、変えるべきものと変えるべきではないものを選別しているつもりでございます。新島先生が若くして海外へ行かれ、現地の方々の貴重な浄財で作られた同志社です。これからもキリスト教主義、自由主義、国際主義という揺るぎない教育理念に基づいた良心教育を継承して、学生の人格形成に寄与し、未来を担う人物の育成に努めてまいります。

「人事部長が評価する大学」「アメニティの良い大学」あるいは偏差値、格付けなど、現代はさまざまな基準によって大学は評価されています。同志社大学もさまざまな場所で評価を受けております。その中の一つ、格付投資情報センターのR&I社からは「A+A+（ダブルエープラス）」という格付けをいただいております。このような評価の中で、大学にとって、特に私にとって一番ありがたい評価とは何か。大学の持つている最も重要な資産とは何か。私はやはり、それは卒業生だと思います。「自分の子どもをまた母校に入れて同じ教育を受けさせた

い」と卒業生に思っていた大学になりたいたいというのが私の願いです。同志社には30万人を超える卒業生がおられます。教育を受けられたのは4年間でしたが、一生「母校」として大学を気にかけていただいている、時にはお叱りのメールもいただきます。それも含めまして、同志社のことを気にかけてくださるのは卒業生の方々です。そういう方々から大学の運営を任せられているのだと、私は考えております。

私の考える「母校」の定義は「人格形成に大きな影響を受けた学校」です。単に知識を教授するだけなら、予備校でも母校と呼べるでしょう。しかし同志社大学では知識と同時に、いかに生きるべきか、どのような有意義な人生を送るべきかという、キリスト教主義に基づいた智慧の部分も教授しているわけです。私は学長として残された3年間、大学の新たな展開ももちろんございますが、そのようなソフトウエア面、あるいは建学の精神に則った教育を進めていくべきであろうと考えております。これからも皆様から貴重なご意見をお届けいただければと

思います。

現在、同志社大学には大学院生を含めて2万7000人の学生がおります。今年も6000人が入学し、そのうち12000人は四つの法人内高校からの推薦入学でございます。私も同志社中学からの推薦組でございましたが、推薦入学者だけではなく、いろいろな選抜方法で入学された方々、いろいろな地域の方々が一つの大学で相互に学び合い、自分とは違う人がいるという多様性を知ることが、大学の出会いの良い点ではないかと考えております。多様なバックグラウンドを持つ方々がぶつかり合い、摩擦熱が出る。これが大学の持つエネルギーではないでしょうか。いろいろな方が同志社大学に入ってくださいのをお待ちしております。ご静聴、誠にありがとうございます。

（2010年5月30日、大丸京都店6階多目的ホールでの講演を編集し掲載）

（※）現在「国際地域文化学部（仮称）」として設置構想中。

京田辺市多々羅に

大学六つ目の 「多々羅キャンパス」誕生



旧「厚生年金休暇センター（ウェルサンピア京都）」を購入し、整備・改修。
外国からの留学生、研究者の宿舍ほか新たな国際交流事業の拠点誕生。